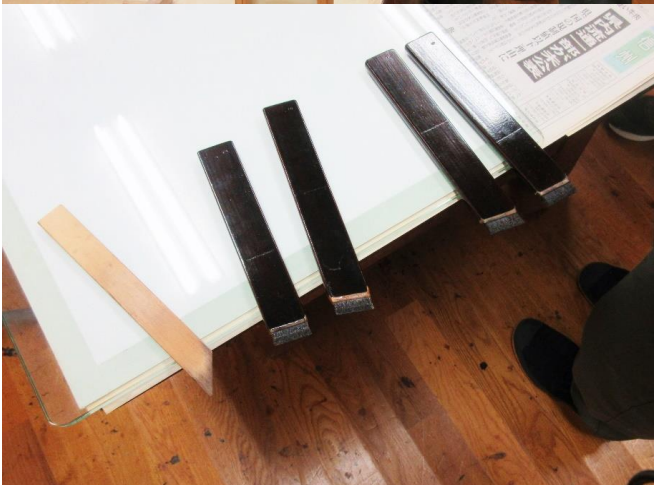


10月初めの5日間、漆実習が行われました。昨年引き続き、漆の授業が組まれている木材造形科だけでなく、木工科訓練生も体験できる短期の漆実習です。漆を塗る木地は、訓練生が各々塗りたい物を用意しました。



初日、漆を塗る前に木地の表面処理は適切か確認しました。漆を塗るのに適した木地表面になるよう調整して、1回目の漆を塗布。漆の訓練を担当するのは木曾平沢で漆の仕事をされている2人の職人さんです。今後予定している木材造形科の漆の訓練も指導していただきます。



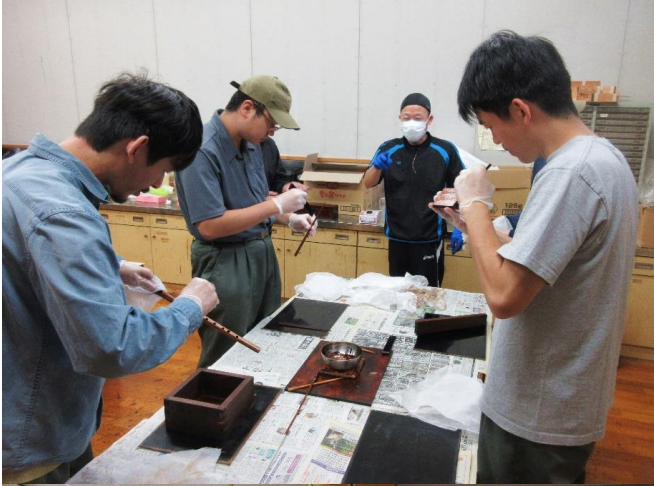
漆の塗布には漆専用の刷毛を使用します。この刷毛は、若い女性の髪の毛でできている特殊な刷毛です。



かぶれ防止のため、必ず手袋をはめて作業します。刷毛で漆を木地全体に塗布していきます。塗布した漆を寒冷紗などで拭き上げます。



拭き上げた製品は室（ムロ）という押入れのような収納庫へ置き、硬化するまで保管します。
漆の硬化には、温度と湿度が関係しており、室を漆の硬化のために最適な温度と湿度に管理します。
また、室に入れることにより埃の付着を防ぎます。



漆が硬化したら再び漆を塗り重ね、拭き、室へ。
今回の授業では、5回作業を繰り返しました。



完成した製品を並べ、講評会を行いました。
訓練生は自分の製作した製品について、感想を述べ、
講師の先生からは励ましの言葉をいただきました。



漆がのって深い色合いになりました。
時間の経過とともに、漆の色は透けて薄くなってきます。
使用することで、表面の変化もあります。
今回製作した製品は、訓練生各々使用して、どのよう
に変化するか学び、技能祭で展示をする予定です。